



平成 26 年 10 月 31 日

各 位

上場会社名 株式会社シヨクブン
 代表者 代表取締役社長 川瀬 公
 (コード番号 9969)
 問合せ先責任者 取締役経理部長 榎本 正樹
 (TEL 052-773-1011)

業績予想との差異及び業績予想の修正並びに剰余金の配当（中間配当） 及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 5 月 9 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。
 また、平成 26 年 10 月 31 日開催の取締役会において、以下のとおり、平成 26 年 9 月 30 日を基準日とする剰余金の配当を行うことについて決議しましたので、併せてお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値との差異(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,766	百万円 57	百万円 15	百万円 △14	円銭 △1.24
今回実績(B)	4,403	△16	△54	△49	△4.16
増減額(B-A)	△362	△73	△70	△34	
増減率(%)	△7.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	4,408	△3	△59	74	6.25

平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 10,377	百万円 473	百万円 386	百万円 231	円銭 19.54
今回修正予想(B)	9,677	237	155	94	8.00
増減額(B-A)	△700	△236	△231	△136	
増減率(%)	△6.7	△49.9	△59.8	△59.0	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	9,318	129	41	112	9.48

平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値との差異(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,761	百万円 30	百万円 18	百万円 △1	円銭 △0.11
今回実績(B)	4,397	△44	△53	△38	△3.28
増減額(B-A)	△363	△75	△71	△37	
増減率(%)	△7.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	4,403	△30	△56	87	7.39

平成 27 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 10,362	百万円 425	百万円 369	百万円 233	円銭 19.74
今回修正予想(B)	9,662	188	138	97	8.20
増減額(B-A)	△700	△236	△231	△136	
増減率(%)	△6.7	△55.6	△62.6	△58.4	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	9,304	80	24	114	9.70

修正の理由

1. 第2四半期連結累計期間業績予想

当第2四半期連結累計期間につきましては、新たなメニュー商品やお買物代行サービスなど新規のサービスを導入してまいりましたが、物価の上昇、消費者の購買マインドの低下、販売要員の不足などが売上に影響し、また天候不順などから仕入商品の価格上昇などが売上原価に影響を与え、当社グループは引き続き厳しい経済状況で推移いたしました。

結果、営業利益、経常利益、四半期純利益は前回予想を下回り、16百万円の営業損失、54百万円の経常損失、49百万円の四半期純損失になりました。

2. 通期業績予想

通期の業績見通しは、第2四半期連結累計期間業績及び直近の実績も踏まえ、減額修正するものであります。

3. 個別の第2四半期累計期間業績及び通期業績予想につきましても、連結と同様の理由によりそれぞれ修正いたします。

対策

当社グループでは厳しい経済状況を真に直視し、抜本的な対策として引き続き「変革」を旗印とする業務の見直しを推進してまいります。またさらに当社グループは機関投資家向けに導入されたスチュワードシップに十分応えられる企業になるべく努力をし、ROEなどを改善して企業価値の増大に努めてまいります。

そのため、献立のさらなる改良、新製品の開発による収益力の向上を図るとともに、日常業務の改革を通じて生産性の向上に努めてまいります。また借入金の繰り上げ返済などを積極的に行うことにより資金効率を高め、財務改善も大幅に進めていく所存です。

● 剰余金の配当（中間配当）の決定及び期末配当予想の修正について

1. 剰余金配当（中間配当）の内容

	決 定 額	直近の配当予想 (平成26年5月9日公表)	前期実績 (平成26年3月期)
基 準 日	平成26年9月30日	同左	平成25年9月30日
1株当たり配当金	4円	3円50銭	3円50銭
配当金総額	47,396千円	—	41,480千円
効力発生日	平成26年11月28日	—	平成25年11月29日
配 当 原 資	利益剰余金	—	利益剰余金

2. 配当予想の内容

基 準 日	1株あたり配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	年 間
前回予想	3円50銭	3円50銭	7円
今回修正予想	—	4円	8円
当期実績	4円	—	—
前期実績 (平成26年3月期)	3円50銭	3円50銭	7円

3. 中間配当、及び期末配当予想の理由

当社は、株主様に対する利益還元を経営の最重要課題として位置付けており、配当政策は、長期的かつ安定的な配当の実現を基本方針としております。

この度、当社の経営状況等を総合的に勘案した結果、中間配当金及び期末配当金を3.50円から4.00円に修正させていただきます。

※ 業績予想等につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります

以 上